

レタスビッグベイン病に強い 高品質レタス新品種「フユヒカリ」

国内の冬春作レタス産地では、土壌伝染性のウイルス病であるレタスビッグベイン病(写真1)が多数の県で発生し、大きな問題となっています。レタスの葉脈付近が退緑化し、レタスの球は小さくなり、収量が低下します。難防除病害ですので、対策として抵抗性品種の利用が有効ですが、現在市販されている抵抗性品種では、汚染度の高い圃場等では抵抗性は必ずしも十分に発揮されず、収益の低下が避けられません。そこで、(独)農研機構野菜茶業研究所では、東北農業研究センター、近畿中国四国農業研究センターと共同して既存の抵抗性品種よりも強い抵抗性を有するレタス新品種を育成しましたので、その成果の概要を紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 開発した品種の「フユヒカリ」(写真2)は、高品質でレタスビッグベイン病に強い秋まき厳寒期どり用の品種です。ビッグベイン病抵抗性ですが品質的には問題のある品種「トンプソン」とビッグベイン病罹病性ですが秋播き厳寒期どり作型用の優良品種「シスコ」を交配し、その後代について選抜と採種を繰り返し、育成されました。
2. 「フユヒカリ」の収量及び球の品質は「ロジック」と同等です。また、秋播き厳寒期どり用の代表品種「シスコ」と比べ、2割以上の増収が期待できます。



表1 「フユヒカリ」の形態・収量特性試験

品 種	形態・収量特性			
	球重(g)	球形指数	規格内率(%)	収量(kg/a)
フユヒカリ	438	1.01	98	267
ロジック	432	0.97	95	263
シスコ	382	0.96	90	198

注1. 品種:ロジックはビッグベイン病抵抗性品種、シスコは罹病性品種
 2. 球形指数: 球高/球径

表2 レタスビッグベイン病抵抗性検定結果

品 種	発病株率(%)	発病度
フユヒカリ	50	36
ロジック	63	51
シスコ	87	69

1. 発病度:
 $\{\sum(\text{発病指数} \times \text{指数別株数}) / (\text{全株数} \times 3)\} \times 100$
 2. 発病指数:0(無病徴)~3(重度の病徴)の4段階

☆ 活用面での留意点

1. 「フユヒカリ」は、昨年12月に品種登録出願公表を済ませました。今後、利用許諾契約を締結した民間種苗会社を通じて種子販売をする予定です。
2. 詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所野菜ゲノム研究チーム(電話 059-268-4655)へお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)